

梅の時期に訪ねる 春陽の京都散策

2027年	ご旅行期間とご旅行代金		
2月22日(月)発～2月26日(金)着…	¥320,000	お一人部屋利用追加料金	¥47,000



東寺(イメージ)

ツアーのポイント

- まだ観光客がそれほど多くない**梅の季節の京都**にたっぷり4連泊いたします。
- 梅だけでなく、京都府内最大級の横穴式石室とされてる**蛇塚古墳**も訪ねます。
- 日本酒の試飲も楽しめる**月桂冠大倉記念館**にも足を延ばします。
- 京都国立近代美術館**、**京都国立博物館**での芸術鑑賞もお楽しみください。
- 京都中心部にご宿泊いただきますので、散策にも便利です。
- 京の味覚をお楽しみください。

日本で最初の密教寺院・東寺

東寺の正式名称は「教王護国寺」で、真言宗の総本山、日本で最初の密教寺院とされています。平安京遷都の際に都の正門・羅城門の東に建てられ、西の「西寺」と対になって国を守る寺として創建されましたが、西寺は廃れ、現在は東寺のみが残っています。その後、弘法大師・空海が託されて真言密教の拠点となり、現在は世界遺産にも登録されている京都を代表する古寺です。東寺と言えばシンボルの五重塔で、高さ約55メートルと木造の塔として日本一の高さを誇ります。京都駅近くの夜景写真などにもよく写るので、京都のランドマークとして親しまれています。東寺の境内には、紅梅・白梅などおよそ100本ほどの梅があり、早春の花として楽しまれています。

京都最大級の桜の名所・北野天満宮

学問の神様として有名な菅原道真公をお祀りする、全国約一万二千社の天満宮・天神社の総本社です。天神信仰発祥の地とされ、「北野の天神さん」「北野さん」と親しまれています。道真公は平安時代の学者・政治家で、文章博士から右大臣にまで昇進しましたが、政争により大宰府へ左遷され、その地で亡くなりました。その後に起きた落雷や疫病などを道真公の祟りと恐れた朝廷が、947年に北野の地に小さな社を建てて鎮め奉ったのが始まりと伝えられ、959年には藤原師輔によって社殿が整えられました。本殿・拝殿などから成る社殿は、拝殿と本殿を「石の間」でつないだ独特の「八棟造」という様式で、国宝に指定されています。中門(三光門)や透塼、回廊、東門なども重文で、楼門から奥へ進むにつれて、豪華さと荘厳さが増していく造りです。境内には「撫で牛」の像があり、体の悪いところと同じ部分を撫でると良くなると信じられています。また、境内には「北野型」と呼ばれる六角形の石灯笼など、ここならではの石造物も点在しています。境内には約50種、1,500本ほどの梅があり、そのうち約1,000本が「梅苑 花の庭」に植えられています。本殿前には道真公ゆかりの「飛梅」もあり、2～3月の開苑時期には、梅の香りに包まれた庭を散策できます。2月25日の道真公の命日には「梅花祭」が行われ、上七軒の芸舞妓による野点も催されます。

北野天満宮



静かな梅の香りに包まれた古社・梅宮大社

梅宮大社は、京都市右京区梅津にある古い神社で、古くから「梅の名所」として知られています。ご祭神には酒造の神や子授け・安産の神として信仰される神々が祀られ、特に檀林皇后がここに祈って皇子を授かったという伝承から、子授け・安産、さらには酒造守護のご利益で知られています。社名の通り、境内は梅をはじめ花の名所です。神域には古くから梅が植えられ、現在は約40種550本ほどの梅があり、2～3月ごろには境内が梅の香りで満たされます。梅の実を漬けた「招福梅」という授与品も、この梅にちなんだものです。

梅宮大社



ご旅行条件

- 募集人員／12名様定員
- 最少催行人員／**6名様**
- 全食事付／朝食4回・昼食4回・夕食4回(昼食はお座敷になる場合がございます。予めご了承ください)
- 千歳空港より、全行程、社員添乗員同行
- トランク往復無料託送サービス
- [ご自宅～ホテル、空港～ご自宅](お一人様1個まで)
- ※日本各地の空港発着も承ります。料金はお問合せ下さい。
- ※表記の「○」はお食事の有を示します。「×」の食事は含まれておりません。
- ※観光地への訪問は天候などの状況により順序を変更してご案内する場合がございます。



ご利用予定ホテル

- 京都／／ANA クラウンプラザ、ソラリア西鉄ホテル京都プレミア 三条鴨川
- ※上記ホテル又は同等クラスとなります。

ご利用予定バス会社

神栄観光バス、エムケイ観光バス、京阪バス、京都さくら観光、明星観光バス、京阪京都交通、丹後海陸交通、京都バス、京都京阪バス、ヤサカ観光バス、京都観光バス、久美浜観光バス、コスモ観光、プレジエント観光バス、阪急観光バス、関西中央交通、ユタカ交通、神栄観光バス

都市名		スケジュールと見どころ/お食事と宿泊地
1	千歳 伊丹 京都	スーツケース無料託送サービス ご自宅～ホテル ■午前、千歳より、全日空にて伊丹空港へ[08:25発/10:25着]。 ■着後、京都府へ移動し、一休さんが晩年を過ごしたとされる 訓恩庵 〔一休寺〕や、宇治市に位置し奈良時代創建と伝わる古寺・ 三室戸寺 、1909年建造の酒蔵を改装したもので、酒どころ伏見の景観を代表する建物としても知られる 月桂冠大倉記念館 へもご案内いたします。 《京都市内にゆったり4連泊です》 ☒・☒・☒[京都市泊]
	京都 (上賀茂神社) (京都府植物園) (下鴨神社) (大豊神社) (金戒光明寺) (京都府近代美術館)	■午前、京都の中でも「静かな厳かさ」と自然の美しさが両方味わえる最古級の神社・ 世界遺産 上賀茂神社 へ。 ■その後、大芝生地、日本庭園、洋風の花壇、桜林、紅葉エリアなどがあり、「季節の京都」と「世界の植物」の両方を楽しめるのが特徴の 京都府植物園 を訪ねたのち、京都の原風景とされる 世界遺産 下鴨神社 へ。南側の入口から広がる紵の森(ただすのもり)は、原生林に近い鎮守の森で、古くからほとんど姿を変えずに残ってきたといわれています ■午後、「 狛ねずみの社 」として有名な 大豊神社 や、法然上人が最初に本拠とした浄土宗ゆかりの古刹と伝えられる 金戒光明寺 を訪ねます。 ■夕刻、日本画・洋画・版画・彫刻・写真に加え、陶芸・染織・漆工など工芸も充実している 京都国立近代美術館 を見学します。 ■夕食は、 京懐石料理 をお召し上がりください。 ☒・☒・☒[京都市泊]
3	京都 (京都御苑) (晴明神社) (北野天満宮) (大將軍八神社) (二条城) (錦市場)	■午前、京都御所・仙洞御所・大宮御所、公家屋敷跡、閑院宮邸跡庭園など、平安～近代の歴史を感じる場所が園内に点在する 京都御苑 へご案内します。園内には 約200本の梅の木 が植えられています。その後、平安時代の陰陽師・安倍晴明をお祀りしている 晴明神社 と、安倍晴明が式神(霊的な従者)を隠していた場所としても有名で、晴明ゆかりのスポットとしてしばしば紹介される 一条戻橋 を訪ねます。 ■午後、菅原道真公をお祀りする、全国約1万2千の天満宮・天神社の総本社・ 北野天満宮 を参拝します。 約1500本もの梅 が咲き誇る、 京都最大級の梅の名所 としても大変美しい場所です。 ■その後、陰陽道・星の信仰(暦・方位)と深く結びついた神社とされる 大將軍八神社 や、徳川家康が京都の拠点として築いた城・ 世界遺産 二条城 へご案内します。城内には、 約130本の梅の木 が咲き誇ります。 ■夕刻、生鮮食品、漬物、乾物、豆腐や湯葉、だし、京菓子、包丁など、京都の食文化がぎゅっと集まった「京都の食の台所」 錦市場 へ。 ☒・☒・☒[京都市泊]
	京都 (天龍寺) (蛇塚古墳) (梅宮大社) (京都国立博物館) (智積院)	■午前、JA 京都が運営する農畜産物直売所で旬の京野菜や果物など地域の特産品が並ぶ JA 京都「 たわわ朝露 」を訪ねます。 ■その後、臨済宗天龍寺派の大本山・ 世界遺産 天龍寺 へ。国の特別名勝に指定されている曹源池庭園をご案内します。また、石室の全長は約17.8メートルで、京都府内最大級の横穴式石室とされてる 蛇塚古墳 を見学します。 ■午後、 約550本の枝垂れ梅 が咲く京都でも圧巻のスポットとして知られている 梅宮大社 を訪ねたのち、主に「平安時代以降の日本美術」「京都ゆかりの文化財」を中心に、仏像・絵画・工芸・書跡・考古資料などを収蔵・展示して 京都国立博物館 を見学します。 ■夕刻、金堂前の 梅林園 は規模も花の美しさも格別な 智積院 へご案内します。 ☒・☒・☒[京都市泊]
5	(東寺) (伏見稲荷大社) 京都 伊丹 千歳	■午前、京都のシンボルともいえる五重塔を 梅の花 が彩る 世界遺産 東寺 へご案内します。その後、稲荷神社の総本宮で、全国に約3万社ある「お稲荷さん」の本山にあたる 伏見稲荷大社 、 枝垂れ梅 で知られる 城南宮 を訪ねます。 ■また、関西圏の農家さんが出荷したものを中心に販売する 旬の駅京都店 に立ち寄ります。 ■午後、伊丹空港へ移動したのち、航空機にて千歳へ[15:55発]。着後、解散[17:30 着]。 スーツケース無料託送サービス 空港～ご自宅 ☒・☒・☒

平安時代から京都で愛されてきた梅

古くから京都と梅の結びつきが深い理由は、「歴史・信仰・気候と景観・文化の好み」が重なっているからだと言われています。京都では、平安時代から梅が「都の花」として好まれてきました。特に大きいのが、菅原道真公と北野天満宮の存在です。学問の神・菅原道真公は梅をこよなく愛し、その歌と伝説が広まりました。それを祀る北野天満宮は、「梅の名所」の代表となっています。「学問の都・京都」と「学問の神が愛した梅」が重なって、梅が特別な花として植え続けられてきました。京都御苑などでは、今も梅林や名木が残り、「御所と梅」「公家の庭と梅」という風景が京都らしい早春の象徴になっています。静かな香りと控えめな花姿が、和歌・茶の湯・宮廷文化の美意識に合っていたことも大きいと考えられます。こうして歴史のある、公家文化の庭、街中の小さな神社や公園にまで梅が広まり、結果として「京都は梅が見られる場所が多い街」になっていると考えられます。現在は、「梅めぐり」「梅だより」など、梅をテーマにした散策やイベントが毎年組まれていたり、府内には梅林や梅の名所が数多く点在しています。